

# ご存知ですか？ 伝統工芸のアートウォール

半蔵門線や大江戸線の開通により、ますます各地からのアクセスが便利になる江東。新たな玄関口となる「住吉駅」や「清澄白河駅」では、「職人の街」江東を感じることでできるアートウォールが見られます。



改札口を入ると、正面の巨大なパネルが目をはきます。

夏もよいよ本番となりました。夏休みで、出かける機会も多くなると思います。区内には、3月末にオープンしたばかりの中川船番所資料館や、江戸情緒たっぷりの深川江戸資料館、芭蕉記念館など、歴史や文化に触れることのできる場所がたくさんあります。お出かけになってみてはいかがでしょうか。

資料館をめぐるには、バスや地下鉄が便利です。区内には東西を結ぶ新宿線や東西線の他に、大江戸線・半蔵門線が開通し、ますます便利になっています。

半蔵門線の新駅「住

# 下町文化

NO. 222  
2003.7.15

発行  
江東区教育委員会  
生涯学習部生涯学習課  
〒135-8383  
江東区東陽4-11-28  
TEL(03)3647-9819  
<http://www.city.koto.tokyo.jp/~bunkazai>

## 伝統工芸のアートウォール

文化財系自主グループ誕生中！

「紀長伸銅所」解体の報告  
平成14年度文化財委託調査報告

「江戸に集う文人」展  
芭蕉記念館新展示

「中川番所とその背景(上)」  
中川船番所資料館開館記念講演録

「釣針のうつりかわり」  
中川船番所資料館収蔵資料展

「職人の技」を体験してみよう！  
森下文化センター深川体験わーど

「職人の街」江東を感じることでできるアートウォールが見られます。吉駅」では、ホームの壁や柱が、「江戸職人芸」をテーマとしたアートウォールで彩られているのをご存知でしょうか。3階ホームでは、地場産業である江戸切子のカットが大胆な構図で壁を飾っています。4階ホームでは、漆器や木彫などの美しいラインが見られます。いずれも朱色を基調として、その鮮やかさに目を奪われます。柱の模様は、障子などの建具を飾る「組子」という木組みの模様です。その他、墨壺・カンナなどの道具、それらを駆使した職人が今まさに工芸品を生み出していく様子も見られます。また「清澄白河駅」には、区内の小中学生が職人さんの指導を受けて卒業制作した木彫刻のレリーフや更紗染めが展示されています。

職人が多い  
街江東  
地元に  
育まれ  
た伝統  
工芸を  
ちよつ  
と見直  
してみ  
ません  
か。



電車の待ち時間も苦になりません。

## 中級研修会の仲間から

# 文化財系自主グループ誕生中!

郷土の歴史や文化を学ぶグループが続々と誕生中です。

平成13年には「江東区の文化と自然を愛する会」、昨年は「江東区の歴史と文化を継承する会」、そして今年には「江東の江戸をたずねる会」が結成されました。

これらのグループ誕生のきっかけとなったのが、文化財保護推進員中級研修会です。

文化財保護推進員中級研修会は今年で第18期になり、文化財保護推進員講習会（初級講習会、今年度第19回）の修了者が希望して受講します。

自主グループを生み出した中級研修会とは、どのような活動を行っていると思いますか。本区以外の博物館見学研修も実施しますが、活動の中心となるのは、ゼミ方式によるグループ研究です。

年間活動は10回設定しており、まず、江東区の歴史・文化・民俗などから、どのような研究テーマにするかを話し合います。そしてテーマ決定後は、その年の受講者数（今年度は16人）にあわせて、1班もしくは2班に分かれてグループ研究に取り組みます。

班内では、テーマにもとづいて調査する項目を分担し、図書館などで調べた内容を班に持ちかえります。そこで質疑応答を行い、これを繰り返すこと

によって研究全体をまとめていきます。

これまでの中級研修会では、「浮世絵から探る自然」「三井親和」「小名木川」「幕末の医師」などをキーワードとして、最後には研究内容を報告書としてまとめてきました。これらの報告書は、区内の各図書館で閲覧するこ



初級修了式における成果発表会（平成12年11月）

とができます。

中級研修会の目的は、グループ研究を通じて、文献調査・研究の方法とその技術を習得することにあります。さらに、自ら調べ考えようという自主的な活動を重視することによって、その姿勢を養います。それが、各自で郷土学習や研究を続けていくための基礎となっているのです。

毎年、テーマを決めるのに苦労しますが、テーマを設定するのは、あくまで受講者です。研究テーマや調査対象の文献を、前もって決めておくほうが、受講者も担当専門員も負担がありません。しかし、すべてお膳立てをし、答えや結論を与えても受講者にとって何の利益にもならないでしょう。また、進歩や発展性も望めません。担当専門員は、現在の研究水準を踏まえて舵取りの役割を担いながら、指導と助言を行います。このことが、受講者のあら

参考）第18期  
文化財保護推進員中級研修会日程

回	時間等		研修内容
	月日	6:30 8:00	
1	5. 7 (水)		オリエンテーション (自主活動の目的など)
2	5. 21 (水)		資料調査と研究テーマ 活動方法の設定
3	7. 6 (日)		博物館見学研修 (博物館等を見学・時間は未定)
4	7. 9 (水)		自主活動(ゼミ方式)
5	7. 23 (水)		自主活動(ゼミ方式)
6	9. 10 (水)		自主活動(ゼミ方式)
7	9. 24 (水)		自主活動(ゼミ方式)
8	10. 15 (水)		自主活動(ゼミ方式)
9	11. 5 (水)		自主活動 (1年間のまとめ)
10	11. 19 (水)		成果報告 ・反省会

【会場】教育センター 1階第1研修室  
【時間】午後6時30分～午後8時00分  
(最終日のみ7時30分終了)  
\*11月26日(水)の初級修了式において成果発表の予定。

たな問題関心の広がり、研究に取り組んでいく指標になり、自主グループ結成の原動力となっています。その前提には、受講者たちの「やる気」が必要なことはいつまでもありません。

中級受講者はたまたま一緒にあったメンバーですから、潜在的には、自主グループの結成はいつでも可能だと考えられます。

次に、3つの自主グループに、活動内容や抱負を語っていただきます。

## 江東区の

### 文化と自然を愛する会

会長 福島浩之

発足3年目の親睦団体、現会員20名。主な活動は「月例会」と「地域社会に貢献するイベント」の実施です。

「月例会」は、年10回、平日の夕方教育センターで開催。「江東区」を題材にして、浮世絵、江戸庶民生活、



月例会の様子（於教育センター）

絵画と画家、歌舞伎、近代化遺産、古文書解読、災害、自然、女性の髪形、神社と仏閣、土地造成、鳥瞰図、俳句と俳人、祭と神輿など、会員の幅広い自主研究発表を継続実施しています。

ゲーム感覚のテーマもありました。現在、区の町名は45、そのうちいくつ思い出せるか？ 当日、優勝者の解答数は39、身近で単純なクイズですが会場は大変な盛り上がりでした。

区在住・在勤者の「月例会」見学大歓迎、ご入会者も常時受付、まず左記へ連絡いただき「月例会」の見学を。

「イベント」も手作りで、現在本年度企画を検討中。決定次第「区報」などで案内します。ぜひたくさんの方のご参加をお待ちしています。また、区民の団体や学校で、「区・町の歴史・文化」を題材とした行事開催のご予定があれば微力ながらお手伝いします。

東陽 2 3 5 206 山本へお

気軽にお問合せください。（福島）

## 江東区の

### 歴史と文化を継承する会

会長 上野仁義

この会は、平成13年度第16期文化財保護推進員中級研修会の受講者を中心として、水彩都市江東区を愛する人達により、昨年度から活動している。

発足の主旨は、会の名称が示す通りである。江東区の歴史・文化・人物・風土等を広く探り、深く掘り下げることに、月例会の主な活動である。郷土に関わりのあることに就いて、視野を広げるために、区外にも出掛けている。

活動例を一つ。平成14年9月22日、

砂村新田の開拓者、砂村新左衛門一族



72年に1度の磯出大祭礼の見学会（於茨城県金砂郷町）

の菩提寺、久里浜の正業寺を訪れた。砂村新左衛門を郷土の偉人として研究している本会員の宇多川純正氏の案内である。尋いで新左衛門が勧請したと云う天神社を詣でた。

遊びながら学び、学びながら遊び、自由な意見交換を行い、互いに刺激し合うことを大切にしている。

なお江東区の歴史を考証し、史跡を地道に探訪することを企画中である。

平成14年度の活動と研究やエッセイ等を纏めた小冊子「水彩抄」第1号を近く発行する予定である。（桜井）

## 江東の江戸をたずねる会

会長 田村二郎

本年1月に発足したばかりの、自主研究グループのニューフェイスです。メンバーは、第17期文化財保護推進員中級研修会の受講者を中心に構成されていますが、年齢や性別もバラエティにとり、和気あいあいと会は運営されています。

本会の活動は、二つの柱から成っています。一つは担当者による研究発表です。現在は、中級研修の成果をより発展させる形で、各自研究を進め、順番に発表しています。しかし、研究発表といっても、肩肘張ったものではなく、問題提起型であり、むしろ、発表

後の質疑応答や活発な意見交換が中心となっています。今後もこのスタイルが定着していきそうです。活動は、ほぼ毎月、第3水曜日の夜間に教育センターの研修室を借りて行っています。

もう一つの柱は、史跡めぐりです。会の名称に「たずねる会」とあるように、研究と健康と親睦を兼ねて、毎回テーマを決め、史跡めぐりを行います。開催は不定期ですが、土曜日の午後3時間程度のコース設定で、各自がポイントで説明者となり行きます。第1回目は、小名木川を中川船番所資料館から釜屋堀子育地蔵まで歩き、参加者内では大好評でした。今後も順次計画がありますが、将来的には、他分野の愛好会（スケッチや写真）とも史跡めぐりを通じて交流できれば、本会の活動の幅も広がるかと思われま

（藤田）



例会後の反省会（於ティアラ江東）

区内最古の赤レンガ建築物

# 「紀長伸銅所」 解体の報告

昨年の9月中旬、紀長伸銅所白河工場（白河2-22）にあった通称「赤レンガ工場」（正式には押出工場）の解体作業がはじめられました。周辺住民に惜しまれつつも、敷地内にあった他の工場と共に、3月までにすべての解体等の作業が終了いたしました。

そもそも紀長伸銅所は、江戸時代の万治2年（1660）に、初代三谷長三郎が神田鍛冶町に創設した紀伊国屋三谷長三郎商店（通称「紀長」）を前身とし、当時から銅や黄銅の製造・販売



紀長伸銅所と  
レンガの刻印

を業務としていました。深川工場の設立は、明治34年（1901）で、赤レンガ工場もこのときの建設と考えられています。

このような歴史的建造物の解体にともない、教育委員会では緊急に「紀長伸銅所調査会」（代表 堀内仁之氏）を設置し、専門的な調査を依頼しました。時間も少なく、どの程度の調査が可能か心配でしたが、解体を請負った企業の配慮もあり、ほぼ予定通り調査を行うことができました。

また、地域住民の意向と、関係企業のご協力により、赤レンガ工場の一部を切り取り、新たに建設されるマンションの敷地内に設置することになりました。それは、日本の近代化をめざした明治期、産業を支えた赤レンガ工場の記憶を、地域に永く留めるためです。

\*

さて、赤レンガ工場を形づくっていた煉瓦壁は、32cm程度の厚さでした。使用されていた煉瓦の一部には、いくつかの刻印も確認できました。たとえば、「桜」や「上敷免製」です。この刻印によって、煉瓦の製造地がわかるため、その意味でもこの建物は貴重でした。次に、その刻印について簡単に説明しましょう。

「桜」の刻印は、小菅の集治監（刑務

所）で製造されたもので、通称集治監煉瓦と呼ばれていました。これは、囚人の更正を第一の目的とした作業で、利益を上げるためのものではなかったため、土の練りに時間をかけ、焼き方は丁寧に行われたといわれます。結果として、良質で、加工がしやすいと評判になり、市中で多く使われました。

一方、「上敷免製」の刻印は、日本煉瓦製造会社の工場（現在の埼玉県深谷市大字上敷免）で製造されたものです。煉瓦を大量に焼くことができるドイツのホフマン窯（フリードリッヒ・ホフマン考案）を築き、東京等へ供給しました。その輸送方法は、当初（明治22〜28年頃）は水運を利用し、のち鉄道が主流を占めました。「桜」の刻印煉瓦とともに、紀長伸銅所のみならず、区内でも多くの建物に使われたものと推測されます。

\*

煉瓦工場自体の構造は、平屋・切妻屋根で、工場建築物としては、とてもシンプルでした。四方に造られた開口部（出入口と窓）は、アーチで構成され、大きさ、形式の違いにより、5形式のアーチに分類できました。また、この工場の場合、アーチの下に水平アーチが2ヶ所造られているのも特徴でした。

アーチを2段にする意味は、建築上



アーチ型開口部（右端が円弧と水平のアーチ）

あまりないようですが、水平アーチを組むためには、煉瓦自体の加工や、積み上げる型枠を水平に保つ必要など、高度な技術が要求されました。その技術は、円弧のアーチ以上に難しいといわれます。水平アーチは、慎重に積まれることもあり、建物の構造的な美観をより高めるものによつてです。

\*

以上、調査の経過と成果をも若干踏まえつつ、概略を報告いたしました。明治以降、近代化を進めた政府の政策のもと、銀座一帯の煉瓦化を皮切りに、各地に煉瓦造りの建物が造られました。しかし、大正12年に発生した関東大震災は、その多くを崩壊させたため、耐震性が問題視され、以降は建てられなくなります。そのため、赤レンガ工場を調査し、記録に留める作業は、私たちにとって貴重な情報を得る機会であったといえます。

（注）建設年代に関しては、最近、大正6年とする新たな見解も出されています。

# 「江戸に集う文人」展

平成15年12月14日(日)まで

江東区芭蕉記念館(常盤1 6 3)では江戸を訪れ、また江戸で活躍した俳人から歌人・狂歌師・作家・絵師などの作品126点を公開しています。

徳川家康によって江戸に幕府が開かれたのが、慶長8年(1603)、ちょうど今から400年前のことでした。江戸の町は、それまでの寒村から一変して、政治都市に生まれ変わることになります。町は急速に整備され、武士や町人で賑わうようになると、井原西鶴が江戸を「日本第一、人の集まり所なればなり」というまでに繁栄を遂げていったのです。



仏頂筆「露」一字書

江戸時代の中ごろには、「江戸っ子」という固有の意識が育まれてくるようになり、江戸を象徴する言葉に、当時頻発する火災と庶民の気質を言

い当てたものに、「火事と喧嘩は江戸の華」があり、この「江戸の華」を遠巻きに多くの野次馬が「物見高いは江戸の常」と言い放つ「江戸っ子」たちの独特の気風というものを、ここからも感じ取ることができます。こうした江戸の繁栄と活力は、新たな文化を創出することにもなり、次第に諸国からも多くの文人が訪れ、「文芸都市」江戸が開花していったものと思われまます。

今回の展示は、この「文芸都市」江戸にスポットを当てることで、ここに集う多くの文人を見ていこうとするものです。展示で取り上げた文人のうち俳人では、深川に延宝8年(1680)に移居した松尾芭蕉をはじめ、芭蕉の参禅の師であった仏頂・彼の絵画の師とされる森川許六などの芭蕉時代の俳人から、北村季吟などの貞門俳人、談林派の祖の西山宗因、西鶴の矢数伴諧の記録を一時破った大淀三千風、赤穂義士の一人で俳人でもあった大高源吾、享保期の俳人、そして天明を中心とし



谷文晁筆「日本橋雪景の図」

の村田春海、深川に家塾を開いたとも伝えられる維新期の国学者伊能穎則や儒学者の亀田鵬斎などの短冊が並んでいます。浮世絵師では、歌川

た蕉風復興期の俳人、江戸時代後期から幕末に活躍した俳人、真田菊寛や松平四山という大名俳人にいたる45人・93点の資料を展示しています。

この中で松平四山は出雲国母里藩8代の藩主で名を直興という田川鳳朗門などの蒐集家としても知られ、現在、当館で所蔵する「句空あて芭蕉書簡」はもともとこの直興が所蔵していたものでした。今回この直興の遺墨とその芭蕉書簡を併せて展示するというのも、何かの巡り合わせかもしれません。

狂歌は上方で発生し、文芸東漸にのって宝暦から天明にかけて江戸で開花した文芸です。ここでは、唐衣橘洲のほか幕臣の大田南畝、南畝の甥の紀定丸、石川雅望やその息子の清澄などの作品があります。さらに浮世絵師の葛飾北斎や作家の山東京伝・十返舎一九・滝沢馬琴の作品もみられます。

このほかにも歌人では加藤枝直・千蔭父子、十八大通でも知られた国学者

豊春の「七福神の図」、歌川豊国「十郎喜寿年賀錦絵」、谷文晁の「日本橋雪景の図」の掛軸が展示してあります。そして最後に江戸の無血開城を果たした勝海舟の染筆の「すみだ川」歌短冊まで、今回取り上げた人物は、さきの俳人も含めて69人、全126点もの資料を一堂に会しています。

この展示を通して、江戸時代265年間の時代を鳥瞰するとともに、江戸の町を形成してきた文人たちの遺墨をこの機会にじっくりご覧ください。

## 芭蕉記念館

(横浜文孝)

開館時間 午前9時30分〜午後5時

(4時30分までにこ入場ください。)

展示室休室 月曜日(祝日を除く)

入館料 大人100円・小中学生50円

交通 都営地下鉄新宿線・大江戸線

森下駅下車 徒歩7分

問合せ 芭蕉記念館

江東区常盤1 6 3

☎03(3631)1448

# 中川番所とその背景(上)

千葉経済大学教授

川名 登 先生

先ほど新しく出来上がりました中川番所の資料館を拝見してきました。立派なもので非常に感銘してまいりました。3階に展望室があり、目の下に昔の中川の流れが見えます。直接は見えないですが、ちよつと先に小名木川と新川(船堀川)があり、ちよつと資料館の下で中川と小名木川・新川が直角に交わって十字路になっています。その「川の十字路」の隅に建っていたのが「中川船番所」です。

江戸時代に作られた『新編武蔵風土記稿』という地誌に、中川番所は「中川関所トモ云フ」と書いてあります。いったい「番所」と「関所」というの



は何だろう、関所と番所は同じものなのか、という疑問が出てまいります。非常に単純に申し上げますと、「関所」というのは徳川幕府が設置したものを言います。舟改番所・口留番所、これは大名藩が設置したもので、これが大原則です。中川番所を設けたのは誰かという点、徳川幕府ですので、本来「関所」なのです。しかし、「番所」と言われています。後でご覧いただく

関所手形には「中川御関所」と書いてあります。そのように言われているということは、「番所」とは言いつけれど「関所」と同じような機能を持っていたわけです。ですから、さきほどの大原則でいきますと、「中川番所」は例外的な表現なのです。

## 関所の位置

「関所」というと、一番有名なのは箱根の関所でしょう。箱根に温泉や観光で行くと番所跡という所に行かれると思います。昔の建物が再現され、人形で作られた役人が座っております。幕府が重要な街道とした五街道のひとつ東海道に設けた関所が箱根の関所で

す。

東海道にはもうひとつ大きな関所がある。京都に行くまでに箱根を過ぎてから新居関があります。東海道は全部陸上で行くわけではない。浜名湖があります。現在そこは簡単に鉄橋で渡っていますが、そこを渡し舟で渡るのが東海道の本道でした。その舟が向こう岸に着いた所が新居という所です。

五街道の2番目として中山道があります。関所がどこにあったかご存知ですか。軽井沢のちよつと手前、碓氷峠の下に碓氷関があり、もうひとつ、木曾谷の真ん中ほどに福島関所がありました。これが中山道の関所です。

3番目が甲州道中です。江戸から甲府の方に行く街道です。ここに置かれた関所がどこにあったか。これも山を越える峠にありました。八王子の先、高尾山からちよつと奥の所に小仏峠があり、ここに設けられたのが小仏関所です。

それから4つ目と5つ目の道が日光道中と奥州道中。関所はどこにあるかという点、多くの方が、はてな、宇都宮まで行く間にそんな大きな峠があったかな?と考えます。峠は無いのです。関所はどこにあったかという点、栗橋です。房川渡・中田関といえます。なぜ、ふたつの名を付けるのかといえますと、

真ん中に利根川という大きな川があります。利根川の手前が栗橋、渡った先が中田。日光道中・奥州道中はここを通らざるをえない。これが日光道中の関所です。

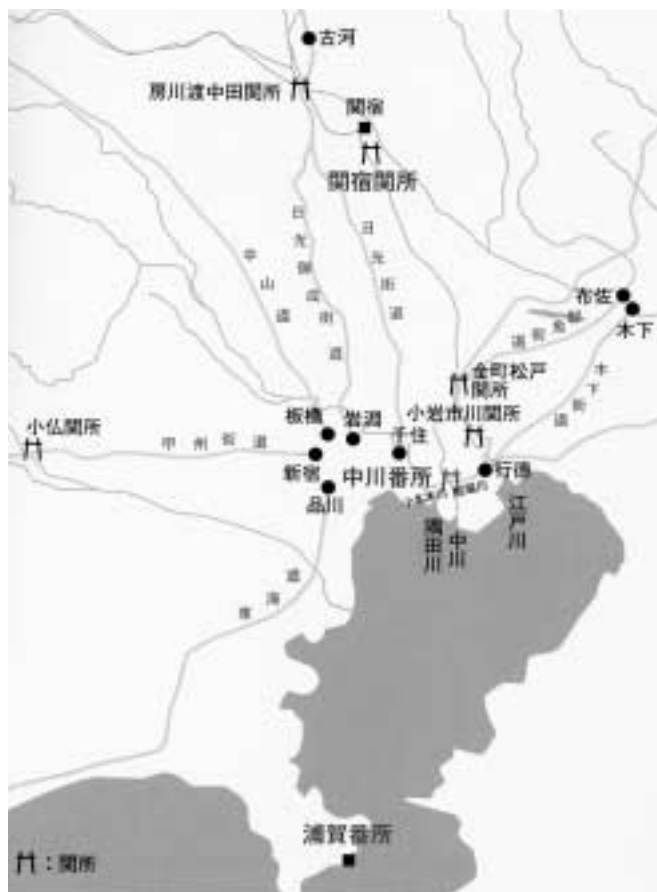
以上が五街道と呼ばれた道の重要な関所ですが、もちろんそのほかに道が無かつたわけではありません。多くの脇街道・脇往還があつたのですが、こちらに関係する道としては水戸・佐倉道があります。これもやはり千住宿から出発します。次の宿場が新宿。そこで佐倉に行く道と水戸に行く道に分れます。ここにも大きな関所が置かれました。これも意外とご存知ない方が多いのですけど、金町という所です。金町・松戸関という関所がありまして、真ん中に流れているのが江戸川。江戸川を挟んで手前が金町、対岸が松戸です。それでは佐倉に行く道はどこに何を置いたかと言いますと、これもやはり江戸川を渡るところにありました。小岩・市川関所です。手前が小岩、川を渡ると市川。ここに関所がありました。

これらの関所の地図を頭に浮かべていただきたいと思います。どんな所に関所があつたのか。西の方から、箱根・小仏・碓氷・栗橋・金町・小岩と、江戸を中心に戻っています。山のある方は

ほとんど峠、山のない方は川、利根川・江戸川という大河です。これを抛り所にして江戸を中心に幕府は関所を設置していたのです。

### 関所の機能

関所で取り締まった物は何か、昔から言われていることですが、「入り鉄砲に出女」。当然、これは入るといことと出るということが対になってしまし、鉄砲が入ることと、女が出るということ、これが関所の取り締まりの基本です。もちろん、出る入るといのは、江戸を中心に行っています。「鉄砲」というのは、別に鉄砲だけではなく、いわゆる武器の代名詞です。なぜそれ



江戸近郊の関所（『江東区中川船番所資料館常設展示図録』より）

がいけないのか？江戸で幕府に対して反乱を起こそうとするならば、まず武器を江戸に持ち込むと、それは当然幕府にとって脅威ですから、厳重に管理して入れさせない。それでは何で女が出ていくのがいけないのか。ご承知の通り、幕府は反乱を防ぐため大名の妻子を人質に取っているのです。その人質をどこにおくかということ、当然ですがすぐ捕まえられる江戸の中に置いている。それが逃げ出すということになると、これは大変ですからね。女性といつても、大名の奥さんが女中か何か化けて出ていくかもしれない。ともかく女は危ないと取り締まる。これが

非常に厳しくて、女性が関所を通る場合は、幕府の中心にいる御留守居役が出す手形が無いと通さない。特に武士関係の女性には厳しいわけですね。いちいち、手形に女を種類分けしまして、例えば、3人の女性が関所を通ると、髪切1人、女1人、小女1人と書いています。おばあさん、お嫁さん、娘さんですね。そこに書いてある通りでないと関所は通さない。そういう細かい規定を作り、これに違つと調べて通さない、というのが「出女」です。関所手形と似ているものに往来手形があります。往来手形というのは庶民が持つもので、宛先が特定されておりません。関所手形はそういうものではございませんで、ひとつひとつ関所が特定されている。箱根関所を通るためには箱根関所宛ての手形が必要です。小仏峠を通るためには小仏関所宛て、ですから関所を3つ通るなら手形が3枚必要となります。それが関所手形で、主に武士とその関係者、家族などに発行される手形です。

これまで私が申してきた関所は、ほとんど五街道とか水戸・佐倉道とかの道筋に設けられていた関所です。言ってみれば、道の関所、街道の関所、陸上の関所です。

### 海の関所と川の関所

ところが、関所には道の関所以外に、水上の関所、海と川の関所があったのです。海の関所は、東京湾の入口、三浦半島の先の方で浦賀という所にあつた浦賀番所です。陸上の関所の取り締まり対象が主に人と荷物でしたが、海の関所が対象とするものは船なのです。これが一番の違い。浦賀番所がどうして関所になるか理解できない方がいるようです。海の上はどうやって関所を設けるのか、海の上には作り様がありませんね。ところが東京湾の入口には見えない線があるのです。房総半島の側は、鋸山のしやまの下の金谷かなやの北に竹岡という所があります。そこと浦賀とを結ぶ線が海の関所ラインです。これを黙って越えると関所破りということになります。関所破りは最も重罪で、磔刑はりつけです。遠くから江戸に荷物を運んでくる船、それが全部浦賀の港に入つて、浦賀番所に手形を見せてから江戸に入る。江戸から出ていく時も同じ。例えば江戸から大坂へ船で行こうとすると、船はそのまま東京湾を出てはいけなかつた。浦賀に寄つて、手形を見せて許可をもらつて、それから出ていく。全て江戸に入ってくる船、出ていく船、この線でチェックする。これが海の関所です。

中山船番所資料館収蔵資料展

『釣針のうづりかわり』

7月19日～8月31日

問題はその次です。川の関所はどこでしょう。ここで話しますのでから、すぐ皆様にはわかってしまう。でも川の関所は2つあるのです。ひとつは言うまでもなく今日の主題である中川番所。もうひとつは関宿関所です。ところがこの関宿関所と中川番所は性格が少し違うのです。中川は正式には中川番所、時々中川関所とも言いますが、名前が違うだけじゃなくてちよつと違うところがある。関宿関所は箱根とか碓氷と同じようにそこを通る旅人をも対象にしている。ところが中川番所は船だけです。この意味では浦賀番所と全く同じです。実は浦賀番所・中川番所というのは二本柱です。お寺の前に立っている仁王様の様なものです。ここが今までお話ししてきた関所とは違う点です。にらみつけるものは両方とも船です。船に積んである物、或いはそこに乗っている人を対象としています。両方共、幕府が設置していますから、関所という性格は一緒ですが、海の方にあるのが浦賀で、川の方にあるのが中川番所。浦賀番所の方はわかり易いですね。東京湾に入ってくるものが皆そこを通らないといけないことになりますから。それでは中川番所は何でこんなところに、ということになるわけです。(次号に続く)

釣りの世界に「釣りの六物」という言葉があるのをご存じでしょうか？もとも中国の諺ですが、六物とは竿・糸・浮き・オモリ・釣針・餌の6つです。中でも釣針は直接魚との接点となる大変重要な道具です。

ひとくちに釣針と言っても、対象となる魚の大きさや口の形状、習性などに合わせて多種多様です。その数は現在では200種にも及び、現在も改良が加えられています。これは世界にも類を見ない日本独自のもので、和竿と同じように日本の釣り文化に対する思い入れの証と言えるでしょう。

今回当館では、1階エントランスホール・資料閲覧学習室において、貴重な古代の釣針のレプリカをはじめ、手作りの「手打ち鉤」など様々な釣針のうづりかわりをテーマにした展示を行います。ぜひご覧下さい。

中川船番所資料館

観覧時間 9時30分～17時

(入館は16時)

(30分まで)

休館日 月曜日

観覧料 大人200円



森下文化センター・深川体験わーるど

「職人の技」を体験してみよう！

期日 7月20日(日)

会場 森下文化センター

江東区森下3 12 17

☎03(5600)8666

1頁目の記事で紹介した卒業制作の木彫レリーフを指導したのが、白河にお住まいの岸本忠雄(区指定無形文化財保持者)さんです。彫刻をしてみたいけれど...、と思っている方、ぜひ「職人の技」体験に参加してみてください。岸本さんに教えてもらいながら、楽しく彫刻の体験ができます。

菓子皿として使える木の葉模様のお皿、もみじや桜の形をしたかわいいコースター、八ガキ入れに最適な本格的な桐の文箱、3種類のうちいずれか一つを選び、彫っていきます。ぜひ、挑戦してみてください。

なお、「職人の技」体験では、他に更

小中学生50円

(団体各150円・30円)

交通 都営地下鉄新宿線

東大島駅下車 徒歩5分

問合せ 中川船番所資料館

江東区大島9 1 15

☎03(3636)9091



レリーフ「萬年橋下の富士」(大江戸線・清澄白河駅)

【申込】電話にて、上記の森下文化センターまで、お申し込みください。先着順です。なお、教材費(1000)2000円(がかかりますので、ご注意ください。

訃報

江東区登録無形文化財(工芸技術・刺繍)保持者鈴木安蔵氏(千田)は、去る5月29日に逝去されました。

謹んで追悼の意を表します。